

○	学級活動		生徒会活動		学校行事	別紙様式 1
---	------	--	-------	--	------	--------

令和6年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長	東 直美	生徒指導主事	中山 貴太
取組事例名	互いを認め、感謝・想いを伝えるメッセージ				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
○ 互いを認め合い、感謝の想いを表現し共有することで社会性を育み、生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成する。	○ 自律心と感謝の心を持ち、協働して社会に貢献する生徒

2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
＜お互いの頑張りの感謝の気持ちを伝える活動＞ 【1年生】「愛のクローバー」 毎週（金）に各班で一枚作成し、教室後方に掲示する。一週間を振り返り、班内で頑張っている人やサポートしてくれた人などをピックアップしてメッセージを記入する。 【2年生】「ありがとうカード」 毎学期に一人一枚作成し、ランダムに選ばれた人に対し、メッセージを送る。学期を振り返り、その人への感謝の想いや良いところなどをメッセージカードにして、直接手渡す。 【3年生】「MVPハート」 毎週（金）に各班で一枚作成し、教室後方に掲示する。一週間を振り返り、班内で頑張っている人やサポートしてくれた人などをピックアップしてメッセージを記入する。	生徒にめあてをもたせるために 「発達支持的生徒指導」の視点から、「魅力ある学校・学級」を目指し、「人とのつながり」を学校という空間で感じることができるよう生徒の実態に応じて、各学年で活動を工夫している。共通点は、クラスの中で友達の頑張りを互いに評価する機会を設け、メッセージカードを掲示し、絆づくりとしている点である。 生徒の意欲を高めるために 掲示方法を工夫し、生徒が過ごす環境が、視覚的に温かい雰囲気になるようにしている。また、学年目標と結び付けて、仲間の頑張りを認めたり、目標がどれだけ達成できているかを確認したりすることで、仲間と協働する力の価値や目標をもつ大切さを自覚させている。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために 生徒が書いたメッセージカードを1、3年生は教室に掲示、2年生はカードをもった集合写真を学年廊下に掲示している。このことを通して温かいメッセージを共有し、感謝の気持ちをもつことの大切さや周囲の人に支えられて今の自分がいることについて価値付けている。

3 成果と課題
昨年度、委員会が全校生徒に呼び掛けて取り組んだ「ありがとうカード」は、今年度も継続して実施をすることができた。また、全校一斉ではなく、各学年の取組として、互いを認め合う活動を継続して行うことで、日々の生活の中に温かい言葉があふれるきっかけづくりとすることができた。また、引き続き学年を越えた取組を、行っていく必要がある。